

第2学年 日本語学級「スイミーのぼうけん」(オンライン授業)

トピックのねらい	○「スイミー」に出てくる海の生き物の名前と特徴について、理解を深めることができる。 ○日本とフィリピンの海の生き物の様子を表す言葉を使って表現し、お話の続きを考えることができる。
日本語の目標	○様子を表す言葉(色・形・大きさ・長さ等)を使って、海の生き物を表現することができる。
関連	教科・単元 国語科「スイミー」A 国語科「かんさつ名人になろう」B 生活科「野菜を育てよう」C
	くらし・行事 MJS フェスティバル(学習発表会) 音読劇D
主な学習活動	① スイミーに出てくる生き物確かめ、生き物の名前と写真を結び付けながら、生き物についての理解を深める。 ② 日本とフィリピンの海の生き物を使って、お話の続きを考える。

教材・教具：国語の教科書(デジタル教科書)、ノート

授業展開

時間	学習活動	指導のポイント 支援「○日本語 ◇教科 *バイカルチュラル視点」	関連
1	1 国語「スイミー」の先行学習であることを知る。また、日本とフィリピンにいる生き物を見て、何の生き物か考える。	*日本とフィリピンにいる海の生き物を紹介し、どちらの国にもいる生き物があることを知る。また、他にもどんな生き物があるのか、興味を高める。	A
	「スイミー」に出てくる生きものと そのようすを しらべよう。		
	2 デジタル教科書を使い、物語の内容を知る。	○漢字にルビがふられているデジタル教科書を使う。 また、生き物のイラストが足りない部分は、イラスト(写真)を追加して提示する。	A
	3 スイミーと赤い魚以外にどんな魚が出てきたか、イラスト(写真)をヒントに考える。	○どんな生き物があるか、イラスト(写真)も参考にしながら確認する。 ◇生き物の様子を表す言葉に注目させて、イラストや写真を使いながら特徴を捉える。 ・ <u>にじいろのゼリーの</u> ようなクラゲ ・ <u>水中ブルドーザーの</u> ようないせえび ・ <u>もも色のやしの木</u> みたいないそぎんちゃく。	A B
4 学習を振り返る。	○感想を発表し合い、次の時間は、スイミーのお話の続きを考えることを伝え、意欲を高める。	A B	



馴染みの薄いと思われる、「いせえび」「うなぎ」「いそぎんちゃく」を追加した。
また、「見えない糸で引っ張られている」と言葉の意味が分かりにくいと考え、その状態を表している「魚たち」の写真も追加して、理解を促した。

2	1 学習のめあてや流れを知る。	○スイミーが日本とフィリピンの生き物に出会う話を作るということを確認する。どんな生き物に出会うか自由に想像させる。	A
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> スイミーのお話のつづきを作って 楽しもう。 </div>			
2	2 日本とフィリピンの海の生き物について考える。(グループ)	<p>*海の生き物がすぐに出てこないことを想定して、海の生き物を3種類ずつしぼって提示する。</p> <p>○海の生き物がどのような様子なのか、観察のポイントを想起しながら表現する。</p> <p>◇表現を助けるために、観察する際のポイント(大きさ・形・色・数・長さ・におい等)を提示しておく。</p>	A B C
3	3 グループで、スムーズに読めるように練習する。(グループ→全体)	<p>○◇お話のベースは指導者の方で作っておく。児童の負担を考え、地の文は指導者が読む。また、児童は、①海の生き物と、スイミーと赤い魚の会話の部分を分担して読むことを確認する。</p> <p>○◇誰がどこを読むかを確認し、よりスムーズに読めるよう練習する。</p>	A B C D
4	4 学習を振り返る。	<p>○観察したものを上手に発表できたことを称賛し、MJSフェスティバルでもこのような流れで発表することを伝え、見通しをもたせる。また、通常学級でも読んでもらうことを伝えて、学習意欲を高める。</p> <p>*両国の海には、他にどんな生き物がいるのか問いかけ、興味を喚起する。</p>	A B C D

【「スイミー」のお話の続き】

①

②

③

④

令和3年度 第2学年 日本語学級「スイミーのぼうけん」ふりかえり

児童の様子	≪日本語学級での様子≫ 【1時間目】 ○生き物に興味のある子が多く、フィリピンと日本の海にいる生き物を見せたときに、「この生き物、知ってる!」と、興味を示す子が多かった。 ○「いせえびって初めて見た。ザリガニみたいだ。」「うなぎって、へびみたい。」と発言し、自分の知っているものと結び付けて理解を深めていた児童がいた。 ○▲「『~のようなくらげ』は「~みたい」ってということ」と発言した子がいて、周りの子も聞き入っていた。うなずいている児童もいたが、まだよく分からないという表情の児童もいた。 ○▲デジタル教科書に追加された生き物を見て、理解が促されていた。聞く活動が長くなり、活動に集中できていない児童や、意欲が高まらない児童も見受けられた。 【2時間目】 ○お話の続きを考えるとということで、意欲的に取り組んでいた。できた作品を国語の時間だけでなく、MJSフェスティバル(学校行事)でも発表することを聞いて、驚きと喜びの表情を見せていた。 ○「これは、前の観察名人で使ったのと同じだ。」と発言し、観察ポイントを思い起こしながら、全員、自分の力で書くことができた。 ○▲例えを使って表現する児童はいなかった。「○色の○○」「○形の○○」という、これまで慣れ親しんできた表現を使う子が多かった。 ≪在籍学級での様子≫ ○出てくる生き物について尋ねた際、積極的に手を挙げて発表していた。 ○生活科「野菜を育てよう」の学習で、育てている野菜の観察を何度も行う中で、書くポイントが理解でき、黙々と記録カードに書ける児童が増えてきた。	
	学習活動	成果 ○ルビふり教科書を用いたことで、安心して読むことができた。 ○教科書に出てくる生き物の写真を追加したことで、どのような生き物が出てくるのか考える際のヒントになったり、理解を深めたりすることに繋がった。
案について	1時間目	日本語支援課題 △教科書に出てくる生き物は何か考える際、一部の児童の発言で進み、聞く時間が長く、意欲が高まらない児童もいた。指導者が本文中の生き物の名前と写真を繋ぐ作業をしていたので、ここの部分も子ども自身ができることよい。 →Jamboard を使って、生き物の名前カードと写真を合わせるような活動を取り入れてもよかった。(Jamboard を使えない児童は、代表児童が共有した画面を見ながら、カードを動かしてもらう。)
	2時間目	成果 ○国語の前单元や生活科の单元でも扱った観察のポイントを提示することで、安心して生き物の様子を表現することができた。 ○日本とフィリピンの海の生き物を使った物語をみんなで作ることができて、児童は大変喜んでいました。

